



（健康福祉まつり）

南島原市シルバー人材センターがボランティア清掃実施！

南島原市シルバー人材センターでは、10月17日(土)をボランティアの日と位置づけ、市内の公園、公共施設、学校周辺の道路などの除草やごみ拾いを実施しました。当日の清掃活動では、約150人が参加。市内15カ所を実施。参加した皆さん、ありがとうございました。



社会福祉協議会でお聞きしてきました。

社会福祉協議会の南有馬支所が南有馬にない理由

合併前、南有馬町社会福祉協議会は、南有馬庁舎内に事務所を置いていましたが、合併後、庁舎のセキュリティなどの問題から事務所移転を余儀なくされました。現在は、北有馬支所と南有馬支所を北有馬町の老人福祉センター内に事務所を構えているところです。この際、新たな事務所の設置や空き施設の利用など十分に検討した結果であることは言ってもありません。



今後については、皆さんの要望は、十分理解していますし、私も自身、小さくとも皆さんの拠点となる施設が必要なのは認識しています。ただ、市と同様、社会福祉協議会も財政が厳しく支所業務の縮小の傾向に向かっているかなければならないのが現状です。今後この件については、継続して協議していきます。

社協の南有馬支所 ないのはなぜ？

ボラ協（＝市ボランティア協議会）

ボランティアの柱は、実際にやる人、行政、そして社会福祉協議会の3つです。特に多くの役割を担う社会福祉協議会は、とても重要だと考えています。ところが、南有馬町の社会福祉協議会が、市の合併を機に北有馬に統合されてしまっています。理由はいろいろですが、南有馬町にだけないのはおかしいし、ぜひ、再考願いたいと思います。

また、2町に1事務所ではないのでは、という風潮も逆に

ボランティア用のスペースの貸し出しについて

各社協支所では、ボランティアグループのサポートに努めていて、これが、要望の施設の機能を果たしていると思います。しかし、ボランティアグループが研修を行ったり、交流、パソコンで自由に閲覧できるスペースなどはありません。私たち自身も、市民が集える「市民活動センター（仮称）」のような拠点が、ボランティアの育成の立場から必要だと考えています。

現在、社会福祉協議会の事務所のほとんどが、市から借りているもので、自由に提供できる施設がありません。適当な施設をお借りできれば、こうした拠点を設けることも可能だと考えています。

南島原市社会福祉協議会 ☎050(3536)2011

ボランティアの交流拠点 点をお願したい

点訳 空き施設の利用についての補足です。現在多くのボランティアが別々に活動していますが、今後は、協力しあう場面が増えると思いますし、そのための交流も必要だと思っています。また、コピー機やパソコンなどがもう少し自由に使えるといいと思います。



日ごろの活動への熱意が、意見交換にも表れます。

あなたも入りませんか？ あなたの団体も登録しませんか？

「こんな活動をしたいけど」、「私の団体も仲間に入りたい」という皆さんのご連絡をお待ちしています。登録すると、社会福祉協議会からのお手伝いが可能となります。まずは、お電話でご相談ください。

南島原市社会福祉協議会
☎050(3536)2011

- あおぞら会
活動内容：精神障害者との交流など
- 美光隆会(みつりゅうかい)
活動内容：各施設へ舞踊訪問
- 北有馬読書推進の会 ひのきの会
活動内容：図書ボランティアとして活動
- 南島原市食生活改善推進協議会
活動内容：いろいろな団体への料理教室
- 南有馬手話の会
活動内容：手話講座の開催
- 手話・松ぼっくり
活動内容：施設訪問、手話ソング、手話ダンス
- 有家おどんが連
活動内容：阿波踊りなど
- 稲穂会
活動内容：手芸
- 布津無双太鼓継承会
活動内容：和太鼓による文化を根付かせる。地域イベントの協力
- 布津BBS会
活動内容：太鼓を通じて地域、子どもたちとの関係を図る。
- 菖蒲の会
活動内容：公民館を中心とした高齢者の親睦と介護予防

ただ、わかっていただけることが、お互いにとって大切だと考えています。

このことから、社協に対して、交流会をお願いしています。また、交流会が、飾らない、日ごろからの交流につながる、いいな、と考えています。

そしてその交流をきっかけに、新しいボランティアの形が生まれるのでは、と期待しています。

点訳 災害時の「要援護者避難支援マニュアル」の話がありました。すばらしいことだと思えます。そのマニュアルをどのように生かすか、その際にボランティアをどのよう

一つだと思えます。

災害のときにボランティアがスムーズに動けるように、日ごろからの連絡（情報の共有）が大切だと思います。マニュアルの中で、ボランティアの位置づけと役割を明確にしてほしいと思います。

市長 今日はありがとうございます。

皆さんの話の中心の「交流」という言葉が印象深く思いました。これからは、「交流」を一つのキーワードにして、まちづくりを進めていきたいと思えます。

本日は長時間ありがとうございました。

まとめ

今月は、皆さんの声だけで、「ボランティア」を考えてみました。ボランティアとは、そもそも多様なもの。関わり方も情熱の形も人それぞれ。そして、それでよい、という懐の深さもボランティアならではのポイントではないでしょうか。

だから、この特集のまとめもまた、「答えは読者の数だけ」、ということにして締めくくりたいと思います。